



秦の始皇帝陵の兵馬俑



古代文明／統一と文明の伝播／17世紀以降の変遷／歴史の軌跡

歴史の概況

大昔の禹の治水から宋・元の時代の四大発明まで、嫦娥が月に向うという伝説から中国で最初の有人宇宙飛行の成功に至るまで、長い歴史の変遷の中で、中国は輝かしい東洋文明を創り出した。バビロン、エジプト、インドの古代文明は戦火で断ら切られたが、中華文明は途絶えたことがなく、さらに今日まで発展をとげ、続いてきた。





古代文明

中国は世界の古代文明国の一つで、文字によって記載された資料をもとに考証できる歴史は約 4000 年にのぼる。およそ 6000 ～ 7000 年前のものと思われる浙江省余姚の河姆渡遺跡や陝西省西安の半坡遺跡で、人手で栽培されたモミ、アワの粒と農具が見つかっている。およそ 5000 年前に、中国人の祖先は青銅器製錬の技術を身につけていた。4000 年余前の夏王朝（紀元前 2070 ～ 前 1600 年）は中国史上最も古い王朝で、3000 年前の商代（紀元前 1600 ～ 前 1046 年）から鉄器を使い始め、2000 年前の周代（紀元前 1046 ～ 前 256 年）にはすでに製鉄の技術が現れた。紀元前 770 ～ 前 221 年の春秋戦国時代は思想、学術の面でも空前に活気を帯び、後世に大きな影響を及ぼす著名な哲学者——老子、孔子、孟子、韓非子および兵略家——孫武などの人物が現われた。



数千年前の彩陶壺



出土した古代の玉器



甲骨文字

20世紀の初め、考古学者は河南省安陽市の商王朝の遺跡である殷墟で約10万件的亀甲や牛の骨を発見した。これらの甲骨の上には異なった5000の文字紋が刻され、商王朝の祖先の祭祀、出征、官職任命、都市建築および占いなどの内容が記載されていた。甲骨文字はこれまでのところ最も早く発見された、解読可能な中国の文字である。

統一と文明の伝播

紀元前 221 年に、秦の始皇帝嬴政は武力で各諸侯国を亡ぼし、数百年余りも続いた戦乱にピリオドを打ち、中国史上最初の統一した中央集権の多民族封建国家——秦を打ち立てた。それから 1911 年に至るまで、中国はあわせて 13 の統一された大きな封建王朝と 2 つの相対的に安定した多王朝の時代を経てきた。





この長い歳月の中で、中国人は前後して製紙術、印刷術、羅針盤、火薬を発明した。農業、手工業と商業が日増しに盛んになり、紡績業、捺染、製陶、製錬などの技術が非常に発達した。紀元元年頃に、漢王朝（紀元前 206 ～ 紀元 220 年）は長安（現在の陝西省西安）から新疆、中央アジアを経由し、地中海東岸に到達する「シルクロード」といわれるルートを切り開き、絹織物、陶磁器を含むさまざまな商品が続々とこのルート経由で西域に運ばれた。その後、四大発明と先進的な科学文化も逐次世界各地に伝播した。

300 年も続いた唐王朝（618 ～ 907 年）は、中国の封建時代の繁栄、隆盛のピークをもたらした。7 世紀 60 年代頃には唐の勢力はタリム盆地、ジュンガル盆地、イリ川流域に深く根を下ろしたばかりでなく、中央アジアの多くの都市や国に及ぶことになり、日本、朝鮮、インド、ペルシャ、アラビアなどの多くの国と幅広い経済的、文化的交流が行われ、海上貿易も非常に発達した。造船業の発展につれ、15 世紀の明王朝（1368 ～ 1644 年）の頃には、中国人の鄭和という人が大船団を率いて 7 回も大規模な遠洋航海を行い、東南アジア諸国、インド洋、ペルシャ湾、モルジブ群島などの 30 余カ国を経由し、最も遠いところではアフリカ東海岸のソマリアとケニアに到達した。

後漢の青銅の馬





天壇の祈年殿



天安門城楼

17世紀以降の変遷

17世紀から18世紀までに、清代(1644～1911年)の最も著名な皇帝の康熙(1654～1722年)は、台湾を版図に収め、帝政ロシアの侵入も防ぎ止めた。中央政権が最終的にチベットの地方の領主を決めるという一連の規則制度も制定した。その統治の下で、中国の領土面積は1100万平方キロを上回るようになった。しかし19世紀の初め頃になると、清王朝は衰退の足取りを速めた。イギリスはこの頃中国に大量のアヘンを輸出し、またアヘン貿易保護のため1840年に中国に対し侵略戦争(アヘン戦争のこと)を仕掛け、清王朝に国の主権を売り渡す屈辱的な『南京条約』の締結を迫った。その後、イギリス、アメリカ、フランス、ロシア、日本などの国も絶えず清王朝にさまざまな不平等条約の締結と領土割譲を迫った。それ以降、中国は次第に半植民地・半封建の社会へと転げ落ちていった。

1911年に、孫中山(孫文)の指導する辛亥革命によって、清王朝の約270年にわたる統治がくつがえされ、同時に2000年以上も続いた封建君主制にも終止符が打たれ、中華民国が打ち立てられた。このことは中国近代史における最も偉大な出来事の一つであった。

1911年から1949年までの間、中国はいくつかの国内戦争を経たが、すべての人たちが心をつにし、中国の歴史で最も長期にわたる外部からの敵の侵入に抵抗する自衛戦——抗日戦争(1937～1945年)の勝利を勝ち取った。

1949年10月1日に中華人民共和国が成立した。中国共産党は執政党として、60余年の奮闘、模索、改革を経て、世界で人口が最も多い発展途上国には政治が安定し、経済が安定して発展し、国民は衣食に満ち足り、外交活動が活発にくりひろげられるすばらしい状況が成功裏に現れた。



歴史の軌跡

中国は歴史上初めての国家の成立から、改革開放に至るまでの絶え間ない発展により、中国は大きな変化をとげてきた。ここで、時間の経過を追って、中国の歴史の流れを簡単に振り返ってみた。これは数千年の歴史の過程の中でほんの一瞬ではあるが、われわれはそこから中国の前進の軌跡を垣間見ることができる。

● 夏 (紀元前2070～前1600年)

中国の史上最初の王朝——夏王朝

中国の原始部落社会では、政権交代には禅譲制がとられた。すなわち在位中の部落連盟の首領が自らすすんで他人に位を譲ることである。その目的は、より賢明で能力のある人に部落をまかせることにあった。黄河流域の有名な部落首領である堯、舜、禹はこうしたやり方で政権交代を行った。禹が亡くなると、禹の子の啓が自ら帝位に就き、禅譲制を世襲制へ移行させ、中国史上最初の王朝——夏を築いた。400余年統治した夏王朝は紀元前1600年に商(殷)の湯王(とうおう)に滅ぼされた。湯王は、商朝を打ち立てた。

● 商 (紀元前1600～前1046年)

● 周 (紀元前1046～前256年)

百家争鳴

紀元前7世紀から紀元前3世紀までの400余年にわたる時期は、中国哲学史における古典の時代である。この時期において中国の哲学思想の主体をなす儒家、法家、道家、さらに兵家、墨家、五行家など数十の思想の流派が現れた。その中で、孔子とその『論語』、老子とその『道德経』、孫武とその『孫子兵法』はこの時期の代表的なものである。



● 秦 (紀元前221～前206年)

中国の歴史上最初の統一した帝国——秦王朝

紀元前221年、秦王・嬴政は中国を統一し、自ら「始皇帝」と名乗り、秦王朝を樹立した。秦の始皇帝は文字、度量衡、貨幣を統一し、

郡県制度と法令をつくり上げた。こうした封建国家の骨組みはその後2000余年にわたってずっと踏襲されてきた。また秦の始皇帝は万里の長城と北部辺境地区に直通する道路および自らの御陵を築造させた。このような広大な帝国に対する管理経験が足らず、その上さらに、労役を酷使し、刑法が厳しすぎ、年々兵力を繰り出すなどの暴政によって、国力はじょじょに衰退し、わずか15年で滅亡し、漢王朝に取って代わられた。



●漢（紀元前206～紀元220年）

張騫を使節として西域に遣わす

漢の武帝の頃、国力が強大化し、さらにヨーロッパを結ぶ「シルクロード」を開拓し、漢帝国は全盛期を迎えた。張騫（?～紀元前114年）はこの時代の外交をつかさどる大臣で、紀元前138年に大月氏へ使節として向かい、匈奴に捕らえられた苦難の歳月を送るが、紀元前126年にやっと長安へ戻る。紀元前119年、二度目の西域への使節として



出発し、漢の武帝の命令で烏孫へ赴くとともに、副使節を大宛、安息などの地に派遣した。そして、そこで亡くなる。張騫は2度西域へ使節として赴き、中原地方と西域の少数民族との結びつきを強め、漢王朝は中央アジアの各地区の人びとの友好関係を築き、「シルクロード」の交易を発展させた。

中国最初の紀伝体通史

中国の最初の通史である『史記』は、紀元前100年頃に完成されたもので、伝説上の黄帝から紀元前122年までの約3000年の歴史を記述したものであり、中国の紀伝体通史の先駆けともいわれるものである。著者司馬遷（紀元前145頃～前87年）は漢王朝の歴史の記述をつかさどる官吏であった。



製紙術の発明

紀元105年に、漢王朝の宦官蔡倫（?～121年）は樹皮、ボロボ

口になった魚捕りの網、布の切れ端、麻のクズなどの材料を用いて植物繊維の紙をつくることに成功した。この種の紙は書写により適したものであり、原材料も豊富で、生産原価もより低かったので、中国ひいては世界的範囲で広く利用されることになった。

- 三国 (紀元220～280年)
- 晋 (紀元265～420年)
- 南北朝 (紀元420～589年)
- 隋 (紀元581～618年)

北京—杭州大運河の掘削

漢のあと、三国・魏晋南北朝時代となった。この時期には封建国家が分裂し、王朝が頻繁に入れ替わった。その後の隋王朝が再び中国を統一した。

隋王朝の2代目の皇帝・煬帝・楊広(569～618年)は、傲慢な性格で、権勢を横暴に振り回した。皇帝即位以前に、皇后と皇太子を讒言により落とし、604年父の楊堅を殺し皇帝に即位。即位後はぜいたく三昧で、民力を濫用、長江下流の巡幸に便利のように数百万人を徴用して南北を貫通する運河を開通させた。その後、3年続けて高麗へ遠征。また国の財力を無視して洛陽を建設した。こうした行動は国力を低下させ、国家を不安定にさせ、農民蜂起を多発させ、ついに最後の巡幸の途上部将に首を絞められ殺された。

- 唐 (紀元618～907年)



文成公主のチベット入り

641年、唐の太宗・李世民は、宗室の文成公主(625～680年)を吐蕃(チベット)王のソンツェン・ガンポ(?～650年)に降嫁させた。文成公主はチベットで40年暮らし、王とともに吐蕃を治め、吐蕃民衆から敬愛され、唐王朝と吐蕃間の平和を守った。彼女はチベットに赴く際に、大勢の文人や楽師、農業技術者、大量の生産工具などを携えて行き、その後も中国の他の地方から養蚕、醸造、製紙などの技術を導入し、文化、経済面でチベットの発展に大きく貢献した。

鑑真の渡日

唐の高僧である鑑真(紀元 688 ~ 763 年) は 14 歳の頃に出家し、律宗の研さんに打ち込んだ。日本の高僧の要請で渡日し、753 年に到着した。日本で仏教の経典を教え伝え、律宗を広め、さらに中国の建築や彫塑、絵画、医薬などの関連知識も伝えた。



- 宋 (紀元960~1279年)

活版印刷術の発明

唐王朝以後、また国家を統一したのが宋王朝であり、300 余年間に 16 人の皇帝が即位した。宋王朝の時代には手工業が迅速に発展し、鋳業、冶金、紡績、陶器の製造、造船、製紙などの分野で著しい技術革新がおこった。活版印刷術は宋の時代の畢昇(?~約 1051 年) が発明したものである。畢昇は粘土で作った小さな四角形の塊に漢字を刻し、それを焼成した。組み版する時、陶製の字を鉄の枠の中に嵌め込め、それが満たされれば一つの版になる仕組みであった。印刷する時に同時に組み版することも可能であった。一つの版を印刷した後、陶製の字が抜き取られ、再び使用できるので、活字と呼ばれた。活字印刷術は人類の印刷史上の革命と見なされている。

- 元 (紀元1271~1368年)
- 明 (紀元1368~1644年)

鄭和の西洋への航海

1368 年、紅巾蜂起軍のリーダー朱元璋が元王朝を覆し、明王朝を樹立した。2つの世紀の間に、明の時代は経済、文化、科学技術などの面で大きな発展をとげた。明代の初期、政府のバックアップのもとで、宦官鄭和(紀元 1371 ~ 1435 年) は紀元 1405 年から 1433 年までの 28 年間に命令により大船団を率いて 7 回も西洋への大航海を行い、30 余カ国にわたり、最も遠いところはアフリカの東海岸と紅海の入り口まで到達し、中国とアジア、アフリカ諸国との経済交流を促進した。



●清(紀元1644～1911年)

鄭成功が台湾を奪回する

清王朝は中国の最後の封建王朝である。1616年に北方の満州族によって建てられ、1644年に山海関内に入り、明朝に取って代わった。清王朝が山海関内に入ったあと、鄭成功(紀元1624～1662年)は中国の東南部で、大きな海上船隊をつくって、清軍に対抗した。1662年、彼は2万余人の大軍、数百艘の艦船を率いて台湾へ退却した。17世紀の初め頃、オランダの東インド会社が台湾に進出し、台湾をその貿易のための植民地にした。中国の将軍鄭成功は1662年に台湾および澎湖などの諸島を奪回し、中国人がそこでの主権を確立した。1684年、清王朝は台湾に台湾府を設置し、その後、台湾省を設置し、台湾を直接管轄することになった。



達頼(ダライ)と班禅(パンチェン)の封号の確立

1653年に、清王朝の順治皇帝は5世達頼を「達頼喇嘛(ダライ・ラマ)」に冊封した。1713年、康熙皇帝は使者を派遣し5世班禅を「班禅額爾德尼(パンチェン・エルドニ)」に冊封した。同時に、清王朝はまたそれ以降の歴代の達頼と班禅は中央によって冊封されなければならないと規定し、この制度は今日まで続いている。

第一次アヘン戦争

19世紀から、いくつかの西洋の国がアヘンによって中国のとびらをこじあけた。1839年中国の官吏林則徐は広東の虎門というところでアヘン約120万キロを公開処分した。1840年6月28日、イギリスの海軍艦隊はこれを理由に珠江の河口を封鎖し、前後してアモイ、上海などの港を占領し、また長江をさかのぼって中国の内陸部に迫り、南京を脅かした。

南京条約

1842年8月29日、イギリスの軍隊は南京の城下に迫り、清王朝

に不平等条約の『南京条約』を締結させた。この条約により、中国は大量の戦争賠償金をもぎ取られるとともに、香港をイギリスに割譲し、また5つの港湾都市を開放し、開港地とした。アメリカ、フランス、スペイン、イタリアなどの国も次々と武力によって、同じような特権を手に入れ、中国はそれ以後半植民地と化した。

第二次アヘン戦争

1856年から1860年まで、英仏連合艦隊はロシア、アメリカの後押しの下で、中国に対して第二次アヘン戦争を起し、清王朝に迫ってイギリス、フランス、ロシア、アメリカの4国とより多くの不平等条約を締結させた。清王朝は大量の戦争賠償金をもぎ取られるとともに、多くの国土を失い、「万園の中の園」と言われた北京の円明園も英仏連合軍によって焼き払われた。

洋務運動

洋務運動は、19世紀60年代から90年代のころにかけて清王朝が行った西側資本主義と密接な関係がある軍事、政治、経済、文化、外交などの活動である。主な内容は次のとおり。軍事工業と相応の企業を創設し、新式兵器によって装備された陸海軍を創設し、留学生を欧米などに派遣し、勉強させるなど。この運動は強きを求め、富を求めることに努め始めたが、最終的には失敗をもって終りを告げた。



中仏戦争（「清仏戦争」ともいわれている）

1883年、植民地化をねらうフランスが中国とベトナムの国境地帯で起こした戦争。翌年に、フランス軍がコウザイ地区の清軍を攻め、それと同時に台湾と福建省の海軍をも攻撃し、中仏戦争は台湾とベトナムで繰り広げられた。この間、フランス軍は惨敗し、フランス内閣もそのために崩壊した。清政府はもともと勝利の可能性があったが、1885年すすんでフランスと停戦条約「中仏新約」を結んだ。中国は南東沿海の重要な船団を失ったばかりか、フランスは中国の雲南省や広西省（当時）、広州湾にまで入ってきた。

甲午戦争

1894年(旧暦甲午の年)日本が朝鮮と中国を侵略するため出兵した。中国の軍隊と人民は抵抗に立ちあがり、甲午戦争(日本では一般に「日清戦争」といわれている)が勃発した。日本軍はいちはやく朝鮮半島を抑え、黄海での海戦を通じて制海権も取めた。続いて、海上と陸上から中国の東北部と山東沿海の都市を攻め、清朝の北洋艦隊は壊滅し、中国は戦いに破れた。戦後の1895年、双方は「馬関条約(下関条約)」を結び、中国政府は重い負債を背負わされ、半植民地、半封建化をさらに深めることになった。



戊戌変法

1898年、康有為(1858～1927年)らが政治や軍事、経済、文化などに及ぶ改良運動を起こし、その夢は清王朝に頼って、中国に君主立憲政体を確立し、国の富強を実現することであった。この運動は清王朝の保守派に反対され、100日間続いた後、残酷な虐殺をもって終りを告げた。

● 中華民国(1912～1949年)

辛亥革命

辛亥革命は孫中山(孫文)に指導された中国民主革命である。1911年、清王朝は全国の鉄道の敷設権を外国に譲渡しようとしたため、さまざまな勢力が連合して、武装蜂起し、中国南部各省の権力を奪い取った。1912年1月1日、中華民国南京臨時政府が成立し、2月12日、清王朝の最後の皇帝が退位を迫られた。2000年以上も続いた封建君主制にも終止符が打たれ、共和制が確立された。



五四運動

1919年に起こった「五・四」運動は中国近代史における数多くの重要な出来事の思想的根源と見られている。その直接の原因は第一次世界大戦後に不平等条約が中国に押し付けられたことにある。愛国主義に燃える学生たちが先頭に立って起こし、さらには全国の主要

都市の各階層に飛び火し授業ボイコット、ストライキ、ゼネストの抗議運動へと燃え広がった。これは同時にいろいろな新しい思潮の中国への伝播の呼び水となり、その中で最も注目されるべきものはマルクス・レーニン主義の中国への伝播であった。

中国共産党の誕生

1921年に毛沢東(1893～1976年)ら13人が中国各地の共産主義グループを代表して、上海で第1回全国代表大会を開き、中国共産党はこうして誕生した。現在、中国共産党の党員は8000万人を上回り、中国社会の中堅となる力である。毛沢東は中国共産党の創始者の1人、中華人民共和国の創建者の1人として、生涯にわたって中国の革命と建設に対し卓越した貢献を行った。そして、革命家、軍事家であるとともに、詩人、書家でもあった。

抗日戦争

1937年から1945年にかけて、中国人民は奮い立って日本帝国主義の侵略に抵抗し、勝利を勝ち取った。これは歴史上「抗日戦争」と言われている。おおまかな統計によると、この戦争の中で中国の軍隊と民衆の死傷者数は3500万人以上で、1937年の価格に換算すれば、中国経済の直接的損失は1000億ドル以上、間接的損失は5000億ドル以上に達した。また無数の貴重な文化財が砲火によって破壊されるか所在が不明となった。

●中華人民共和国(1949年～)

中華人民共和国の成立

1949年10月1日、北京では人びとが天安門広場に集まって建国の祝典を催し、当時の中央人民政府主席の毛沢東は、中華人民共和国が正式に成立したことを厳かに宣言した。

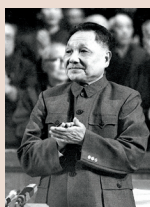


第1次5カ年計画

1953年から1957年にかけて実施された第1次5カ年計画は驚くべき成果を収め、国民所得は年平均8.9%以上増え、国の工業化に

必要な、そしてそれまでになかった多くの基盤産業を作り上げた。その中には、航空機および自動車製造業、大型・精密機械製造業、発電設備製造業、冶金・鉱山設備製造業、高級合金鋼および非鉄金属精錬業などが含まれている。

それ以後、中国政府は5年ごとに1度の経済目標を確定し、新しい5ヵ年計画を実施することになった。現在実施しているのは第12次5ヵ年計画(2011～2015年)。



改革開放

1978年末の中国共産党第11期3中全会をメルクマールとし、中国は新たな歴史段階に入った。当時の中央の指導者の鄧小平氏(1904～1997年)は「改革開放」政策を押し広め、諸活動の重点を現代化建設の上に置いた。中国は経済・政治・文化体制の改革と対外開放を通じて、中国の特色をもつ社会主義現代化建設の道を次第に確立することになった。1992年、中国の改革開放の総設計士である鄧小平氏は「南巡講話」を発表し、その後これは中国の経済改革と社会進歩を大きく推進する肝心な役割を果たした。

1989年、江沢民氏が中国共産党中央総書記に、2002年に胡錦濤氏が中国共産党中央総書記に選ばれた。彼らは中央指導グループを率いて鄧小平氏の提唱した改革開放の方針と政策を継承し、発展させ、また、「三つの代表」の重要思想と「科学的発展観」を提出し、経済はめざましい発展をとげ、人びとの生活水準も向上し、世界に注目されることになった。

香港と澳門(マカオ)の祖国復帰

中国政府は1997年7月1日、1999年12月20日にそれぞれ香港と澳門に対する主権行使を回復し、また香港特別行政区と澳門特別行政区を設立した。中国政府は香港と澳門で「一国二制度」、「高度な自治」の方針を実行している。「一国二制度」とは、中国という統一国家の下で、大陸地域では社会主義制度を実行し、香港と澳門では特別行政区として現行の資本主義制度と生活様式を保ちつづけ、50年間変わらないということである。